

鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告(平成28年度報告)

高知県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

(1) 作成数について

本県における鳥獣被害防止計画の作成数(平成28年9月末時点):34(管内市町村:34)

(2) 特徴等について

本県における鳥獣被害防止計画の特徴等については、複数の市町村が一体となった広域的な計画はなく、各市町村が単独で作成しており、主な対象鳥獣は被害が深刻化しているイノシシ、ニホンジカとなっている。

このため、県が策定した特定鳥獣保護管理計画に沿ったイノシシ、ニホンジカの個体数調整(捕獲計画)並びに農作物を守るための侵入防止柵の整備計画等を定めている。また、捕獲を行ううえで必要な狩猟免許取得の促進、捕獲機材の導入、被害防止に関する研修会の実施等についても計画されている。

2 事業効果の発現状況

(1) 各協議会では鳥獣被害防止総合支援事業を活用し鳥獣被害防止を目的とした協議を重ね、捕獲檻の導入計画、侵入防止柵の設置計画等を定めた。

(2) 捕獲檻を導入した地区では捕獲数が増加しており、侵入防止柵を設置した区域ではイノシシ、ニホンジカによる被害が減少している。

① 評価対象協議会が、H26～28年度の間には捕獲機材数は、捕獲檻:129基となっており、イノシシの捕獲頭数はH26の3,291頭に対し、H28は4,796頭に、ニホンジカの捕獲頭数はH26の6,162頭に対し、H28は6,415頭となった。

② 評価対象協議会が、H26～28年度までの間に設置した侵入防止柵の総延長は、WM柵:48,026m、金網柵:78,994mとなっており、被害の軽減につながったものと推測される。

3 被害防止計画の目標達成状況

(1) 平成28年度末で、室戸市他17市町村における鳥獣被害防止計画が終了し、うち4市町村で目標が達成できなかった。

① 目標達成市町村:14市町村(土佐市、須崎市、土佐清水市、香美市、安田町、北川村、本山町、大豊町、仁淀川町、中土佐町、穂原町、日高村、津野町、四万十町)

② 目標不達成市町村:4市町村(室戸市、馬路村、大川村、黒潮町)

(2) 目標を達成できなかった主な要因

① 被害が広範囲にわたるため、侵入防止柵が未設置の地域も多く残っていることが要因として上げられる。

② イノシシ及びシカの捕獲実績は増加しているが、生息域の拡大や生息数の増加によりこれまで被害のなかった地域での被害発生が要因として上げられる。

(3) 宿毛市については、昨年度に事業評価を行ったが、目標を達成できなかったため、1年間延長して再評価したものの、目標達成には至らなかった。

① 再評価でも目標達成に至らなかった主な要因としては、個体数の急激な増加により、捕獲が追いついていないことや柵を設置していない地域に被害が集中したことがあげられる。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

(別紙1のとおり)

5 都道府県による総合的評価

(別紙2のとおり)

(別紙1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協賛会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										目標値	実績値	達成率	目標値					
土佐市有 意鳥獣被害 対策協議 会)	土佐 市	26 27 28	イノシシ カラス ムクドリ ヒヨドリ ドバト キンバト	(H26) 緊急補償活 動支援事業	イノシシ291頭					3,838千円	2,530千円	741.2%	9.63 ha	22.74 ha	-2373.6%	達成率		
																		<p>【補償実績】 緊急補償事業をH28から開始してお り、イノシシの捕獲数は、291頭であっ た。 【目標】 被害面積は依然高い水準であるが、 被害金額では目標達成に至っており、 対策の効果が出ている。 【今後の対策】 イノシシの被害が大きい地域で有り、 防護柵の設置ができていない地域への 設置や、狩猟者の確保などにより対策 を進めて行く必要がある。</p>

注1: 被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2: 都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協賛会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績		事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										目標値	実績値					
宿毛市青 鳥獣被害防 止対策協議 会	宿毛 市	25 26 27 28	イノシシ シカ サル ハクビシン	推進体制の 整備	協議会総会の開 催 H25:2回	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会	-	-	被害の状況及び被害防止にお ける課題、事業実施計画の検討 等を行うことができた。	21.2%	40.60 ha	防護柵を設置 した地域につい ては、イノシシ、 シカによる鳥獣 の被害が軽減さ れたが、宿毛市 内での個体数の 増加や狩猟者の 高齢化による減 少もあり、捕獲 数は増加傾向に あるものの、捕 獲が追い付いて いない状況のた め、目標達成に は至らなかった。 【目標】 JA高知はたは横西管理 センター 鳥獣被害対 策専門員 稲村 陽介	防護柵及び捕獲檻を 設置した地域について は、シカ、イノシシによ る被害軽減の効果が 出ているが、大型獣(イ ノシシ、シカ、サル)、 小型獣(アナグマ、ウ サギ、ハクビシン、タヌ キ、カラス)が増加傾 向にあり、防除してい ない地域で被害が多く 発生する恐れがある。 なお、新たな鳥獣被 害発生を未然に防ぐた めに、防護柵の設置研 修会の実施や獣種に 合わせた防護柵の設 置、周辺環境整備、保 守管理、維持管理が 必要となる。	【取組実績】 稲村陽介、センターカメラや 侵入防止柵の設置に取り組 んだ。 二ホンジカ及びイノシシの 捕獲数については、基金事 業の開始から今まで、イノ シシ:322頭、H27:1,222頭 (シカ:653頭、イノシシ:569 頭)、H28:1,438頭(シカ:944 頭、イノシシ:594頭)と毎年 増加している。		
				推進体制の 整備	狩猟免許事前講 習会 H25:2回	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会	-	狩猟免許事前講習会を実施す ることができた。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%				
				個体数調整	捕獲檻 H25:3基	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会	平成26年3月20日	100%	捕獲檻を導入し、効率的に捕 獲活動ができるようになった。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%			
宿毛市青 鳥獣被害防 止対策協議 会	宿毛 市	27 28	イノシシ	被害防止施 設	金網柵 H25:3,410m H26:4,920m WN柵 H27:7,400m H28:1,500m	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会	平成26年3月15日 平成27年3月30日 平成28年3月31日 平成29年3月31日	100%	鳥獣被害防止金網柵の整備をす ることにより、地区内における農 作物への被害軽減が見られた。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%	【今後の対策】 今後はさらなる 狩猟者確保の推 進や、防護柵、 捕獲檻の定期的 な点検、維持管 理が必要と考え る。	JA高知はたは横西管理 センター 鳥獣被害対 策専門員 稲村 陽介	【目標】 JA高知はたは横西管理 センター 鳥獣被害対 策専門員 稲村 陽介
				個体数調整	稲わら H26:9基 H28:30基	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会	平成27年2月27日 平成29年3月31日	100%	稲わらを導入し、効率的に捕獲 活動ができるようになった。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%			
				緊急捕獲活動支 援事業	二ホンジカ277頭 イノシシ190頭	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会			国費の上乗せをいまだにどこに より、狩猟者の士気が上がり、 捕獲活動の強化に繋がった。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%			
宿毛市青 鳥獣被害防 止対策協議 会	宿毛 市	27 28	イノシシ	緊急捕獲活動支 援事業	二ホンジカ2576頭 イノシシ2978頭	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会			国費の上乗せをいまだにどこに より、狩猟者の士気が上がり、 捕獲活動の強化に繋がった。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%	【今後の対策】 今後はさらなる 狩猟者確保の推 進や、防護柵、 捕獲檻の定期的 な点検、維持管 理が必要と考え る。	JA高知はたは横西管理 センター 鳥獣被害対 策専門員 稲村 陽介	
				緊急捕獲活動支 援事業	二ホンジカ2784頭 イノシシ694頭	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会			国費の上乗せをいまだにどこに より、狩猟者の士気が上がり、 捕獲活動の強化に繋がった。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%			
				緊急捕獲活動支 援事業	二ホンジカ2784頭 イノシシ694頭	宿毛市青 鳥獣被害 防止対 策協議会			国費の上乗せをいまだにどこに より、狩猟者の士気が上がり、 捕獲活動の強化に繋がった。	21.2%	40.60 ha	25.5,10 ha	0.0%			

注1:被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせた他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止計画達成活動を支援した場合は、その事業内容等も記載する。

(別添1)
4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業費	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				被害主体の評価	第三者の意見	被害防止の評価	
										目標値	実績値	達成率	達成率				
土佐清水市 (土佐清水市 有害鳥獣被害 被害対策協議 会)	土佐 清水 市	26 27 28	二ホンジカ イノシシ サル ハクビシ カラス	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26～27:各1回	土佐清水市有 害鳥獣被害対 策協議会	—	—	被害の状況及び被害防止 における課題の検討を行うこ とができた。	2,463千円	18,203千円	0.0%	7.59 ha	1.16 ha	426.4%	被害主体の主体的な防衛活動の推進が期待されている。また、地域住民の意識にも変化がもたらされた。被害防止の取り組みが継続されている。	被害防止の評価
				個体数削減	被害個体の処置・捕獲・投棄	土佐清水市有 害鳥獣被害対 策協議会	—	—	処理場調整を行うことにより、被害の発生が抑制された。	—	—						
				個体数削減	被害個体の処置・捕獲・投棄	土佐清水市有 害鳥獣被害対 策協議会	100%	100%	被害個体の捕獲が完了した。	—	—						
土佐清水市 (土佐清水市 有害鳥獣被害 被害対策協議 会)	土佐 清水 市	26 27 28	二ホンジカ イノシシ サル ハクビシ カラス	被害防止 施設	WM柵 H28:2,000m	土佐清水市有 害鳥獣被害対 策協議会	—	100%	土佐清水市各地区にお いて、ソコ・ソコ用柵網を整 備することにより、地区内 における農作物の被害の減少 が見られた。	—	—	—	—	—	被害防止の評価		
				(H27) 緊急捕獲活動 支援事業	二ホンジカ330頭 イノシシ161頭	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数 の減少と被害軽減の効果が 出始めている。	—	—							
				(H27補正) 緊急捕獲活動 支援事業	二ホンジカ245頭 イノシシ207頭	—	—	—	—	—							
土佐清水市 (土佐清水市 有害鳥獣被害 被害対策協議 会)	土佐 清水 市	26 27 28	二ホンジカ イノシシ サル ハクビシ カラス	(H28) 緊急捕獲活動 支援事業	二ホンジカ546頭 イノシシ381頭	土佐清水市有 害鳥獣被害対 策協議会	—	—	緊急捕獲活動を行った地域に ついては、シカ、イノシシによ る被害の軽減が期待されて いる。また、併せて、捕獲技 術講習会を行い、捕獲効率の 向上を図る。また、併せて、 捕獲技術講習会を行い、捕 獲効率の向上を図る。また、 併せて、捕獲技術講習会 を行い、捕獲効率の向上に 努めていく。	—	—	—	—	被害防止の評価			
				緊急捕獲活動 支援事業	二ホンジカ546頭 イノシシ381頭	—	—	—	—	—							
				緊急捕獲活動 支援事業	二ホンジカ546頭 イノシシ381頭	—	—	—	—	—							

注1:被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	利用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										被害金額	被害面積	達成率	実績値					
安田町 (安田町有香鳥獣被害対策協議会)	安田町	26 27 28	イノシシ シカ サル	推進体制の整備	協議会総会の開催 H26:28:各2回	安田町有香鳥獣被害対策協議会	—	—	有香鳥獣被害対策の状況、事業の実施計画の検討等を実施できた。	248千円	697千円	0.0%	0.85 ha	0.99 ha	74.5%	防護柵や捕獲檻を設置箇所については、イノシシ、シカによる被害が軽減されていると考えられるが、その他の種所で農作物の被害がある(被害額が大きい)。	防護柵、捕獲檻の設置により、イノシシ、シカの被害は軽減されていると思われるが、防護柵を設置した近くの集落に農作物被害が出ている。今後、捕獲と防護による被害軽減を行う必要がある。	【取組実績】 捕獲檻、防護柵の設置等に取組んだ。 【目標】 被害金額は依然高い水準であるが、被害面積では目標達成に近づいている。防護柵設置の効果【今後の対策】 防護柵の設置ができていない地域への被害対策を進めるため、地域の合意形成を進める必要がある。
				個体数調整	捕獲檻 H26:3基 H27:3基 H28:2基	安田町有香鳥獣被害対策協議会	100%	捕獲檻やセコ-カワの導入により、効果的な捕獲を行うことができた。						有香鳥獣被害対策の結果、一定の成果は表れているが、防護柵の設置箇所以外への被害箇所が移動している。今後、取組みをより推進していく必要がある。	緊急捕獲活動を集中的に行った地域については、シカ、イノシシによる被害軽減の効果が表れているため、引き続き捕獲対策を行っている。	【目標】 被害金額は依然高い水準であるが、被害面積では目標達成に近づいている。防護柵設置の効果【今後の対策】 防護柵の設置ができていない地域への被害対策を進めるため、地域の合意形成を進める必要がある。		
				被害防止施設	金網柵 H26:4,300m H27:6,950m H28:2,500m	安田町有香鳥獣被害対策協議会	100%	鳥獣被害防止柵を整備したことで、被害の軽減につながった。							有香鳥獣被害対策の結果、一定の成果は表れているが、防護柵の設置箇所以外への被害箇所が移動している。今後、取組みをより推進していく必要がある。	緊急捕獲活動を集中的に行った地域については、シカ、イノシシによる被害軽減の効果が表れているため、引き続き捕獲対策を行っている。	【目標】 被害金額は依然高い水準であるが、被害面積では目標達成に近づいている。防護柵設置の効果【今後の対策】 防護柵の設置ができていない地域への被害対策を進めるため、地域の合意形成を進める必要がある。	
				(H27)緊急捕獲活動実施事業	二ホンジカ31頭			捕獲頭数が増加し、個体数の減少と被害軽減の効果が表れている。										
				(H27補正)緊急捕獲活動実施事業	二ホンジカ5頭													
				(H28)緊急捕獲活動実施事業	二ホンジカ40頭													

注1:被害金額及び被害面積は協議会及び協議会が把握している被害額を記載し、これに合わせ他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

(別紙1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地区	実施年度	対象施設	事業内容	事業量	管理主体	始期	利用率・達成率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										目標値	実績値	達成率	達成率					
北川村有蓋 鳥獣被害 対策協議 会	北川 村	26 27 28	イノシシ シカ サル	個体数調 査 整備	捕獲檻 H26:3基 H27:1基	北川村有蓋 鳥獣被害対 策協議会	—	100%	くくりわなを導入し、効 率良く捕獲活動ができる ようになった。	2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	【取組実績】 捕獲檻、防護網の設置等に取り 組んだ。 二ホンジカの捕獲数については、 基金事業を含め、H28:837頭、 H27:555頭、H28:433頭で推移して いる。 【目標】 被害金額、面積ともに目標達成 に至っており、対策の効果がでて いる。 【今後の対策】 二ホンジカ、イノシシの被害対策 は成果が出ているが、サルの被害 が大きくなってきており、地味く みでの取組が必要である。	防護網及びくくりわなを設置した 地域については、シカ、イノシシに よる被害軽減の効果がでてい るが、特に北川村北部において サルによる被害が増加傾向にあ り、これ以上の被害を防ぐため も大型の圍いわな設置研修会 実施や周辺環境整備、足音管 理、維持管理が必要となる。	緊急捕獲活動を集団的に行っ た地域については、シカ、イノシシ による被害軽減の効果がでてい るため、引き続き捕獲対策を行っ ていく必要がある。また、併せて 捕獲檻設置委員会を行い捕獲効果 の向上に努めてください。(以上 佐あき 鳥獣被害専門員 井上 賢三)
										2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。
										2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	捕獲頭数が増加し、個 体数の減少と被害軽減 の効果が始まっている。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。
北川村有蓋 鳥獣被害 対策協議 会	北川 村	26 27 28	イノシシ シカ サル	被害防止 施設	金網捕 H27:1,000m	北川村有蓋 鳥獣被害対 策協議会	—	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	【取組実績】 捕獲檻、防護網の設置等に取り 組んだ。 二ホンジカの捕獲数については、 基金事業を含め、H28:837頭、 H27:555頭、H28:433頭で推移して いる。 【目標】 被害金額、面積ともに目標達成 に至っており、対策の効果がでて いる。 【今後の対策】 二ホンジカ、イノシシの被害対策 は成果が出ているが、サルの被害 が大きくなってきており、地味く みでの取組が必要である。	防護網及びくくりわなを設置した 地域については、シカ、イノシシに よる被害軽減の効果がでてい るが、特に北川村北部において サルによる被害が増加傾向にあ り、これ以上の被害を防ぐため も大型の圍いわな設置研修会 実施や周辺環境整備、足音管 理、維持管理が必要となる。	緊急捕獲活動を集団的に行っ た地域については、シカ、イノシシ による被害軽減の効果がでてい るため、引き続き捕獲対策を行っ ていく必要がある。また、併せて 捕獲檻設置委員会を行い捕獲効果 の向上に努めてください。(以上 佐あき 鳥獣被害専門員 井上 賢三)
										2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	捕獲頭数が増加し、個 体数の減少と被害軽減 の効果が始まっている。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。
北川村有蓋 鳥獣被害 対策協議 会	北川 村	26 27 28	イノシシ シカ サル	緊急捕獲活動 実施事業	二ホンジカ549頭	北川村有蓋 鳥獣被害対 策協議会	—	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	【取組実績】 捕獲檻、防護網の設置等に取り 組んだ。 二ホンジカの捕獲数については、 基金事業を含め、H28:837頭、 H27:555頭、H28:433頭で推移して いる。 【目標】 被害金額、面積ともに目標達成 に至っており、対策の効果がでて いる。 【今後の対策】 二ホンジカ、イノシシの被害対策 は成果が出ているが、サルの被害 が大きくなってきており、地味く みでの取組が必要である。	防護網及びくくりわなを設置した 地域については、シカ、イノシシに よる被害軽減の効果がでてい るが、特に北川村北部において サルによる被害が増加傾向にあ り、これ以上の被害を防ぐため も大型の圍いわな設置研修会 実施や周辺環境整備、足音管 理、維持管理が必要となる。	緊急捕獲活動を集団的に行っ た地域については、シカ、イノシシ による被害軽減の効果がでてい るため、引き続き捕獲対策を行っ ていく必要がある。また、併せて 捕獲檻設置委員会を行い捕獲効果 の向上に努めてください。(以上 佐あき 鳥獣被害専門員 井上 賢三)
										2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	捕獲頭数が増加し、個 体数の減少と被害軽減 の効果が始まっている。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。
北川村有蓋 鳥獣被害 対策協議 会	北川 村	26 27 28	イノシシ シカ サル	緊急捕獲活動 実施事業	二ホンジカ6頭	北川村有蓋 鳥獣被害対 策協議会	—	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	【取組実績】 捕獲檻、防護網の設置等に取り 組んだ。 二ホンジカの捕獲数については、 基金事業を含め、H28:837頭、 H27:555頭、H28:433頭で推移して いる。 【目標】 被害金額、面積ともに目標達成 に至っており、対策の効果がでて いる。 【今後の対策】 二ホンジカ、イノシシの被害対策 は成果が出ているが、サルの被害 が大きくなってきており、地味く みでの取組が必要である。	防護網及びくくりわなを設置した 地域については、シカ、イノシシに よる被害軽減の効果がでてい るが、特に北川村北部において サルによる被害が増加傾向にあ り、これ以上の被害を防ぐため も大型の圍いわな設置研修会 実施や周辺環境整備、足音管 理、維持管理が必要となる。	緊急捕獲活動を集団的に行っ た地域については、シカ、イノシシ による被害軽減の効果がでてい るため、引き続き捕獲対策を行っ ていく必要がある。また、併せて 捕獲檻設置委員会を行い捕獲効果 の向上に努めてください。(以上 佐あき 鳥獣被害専門員 井上 賢三)
										2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	捕獲頭数が増加し、個 体数の減少と被害軽減 の効果が始まっている。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。
北川村有蓋 鳥獣被害 対策協議 会	北川 村	26 27 28	イノシシ シカ サル	緊急捕獲活動 実施事業	二ホンジカ433頭 イノシシ18頭	北川村有蓋 鳥獣被害対 策協議会	—	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	【取組実績】 捕獲檻、防護網の設置等に取り 組んだ。 二ホンジカの捕獲数については、 基金事業を含め、H28:837頭、 H27:555頭、H28:433頭で推移して いる。 【目標】 被害金額、面積ともに目標達成 に至っており、対策の効果がでて いる。 【今後の対策】 二ホンジカ、イノシシの被害対策 は成果が出ているが、サルの被害 が大きくなってきており、地味く みでの取組が必要である。	防護網及びくくりわなを設置した 地域については、シカ、イノシシに よる被害軽減の効果がでてい るが、特に北川村北部において サルによる被害が増加傾向にあ り、これ以上の被害を防ぐため も大型の圍いわな設置研修会 実施や周辺環境整備、足音管 理、維持管理が必要となる。	緊急捕獲活動を集団的に行っ た地域については、シカ、イノシシ による被害軽減の効果がでてい るため、引き続き捕獲対策を行っ ていく必要がある。また、併せて 捕獲檻設置委員会を行い捕獲効果 の向上に努めてください。(以上 佐あき 鳥獣被害専門員 井上 賢三)
										2,275千円	2,310千円	96.4%	27.00 ha	27.00 ha	100%	北川村内において鳥獣 害防止金捕獲の整備を することにより、地区内 における農作物への概 率軽減がみられた。	捕獲頭数が増加し、個 体数の減少と被害軽減 の効果が始まっている。	緊急捕獲活動や捕獲法 術講習会の実施により捕獲 頭数の増加や地域におけ る被害の軽減につながって きた。今後とも引き続き いて被害の軽減に向けた 対策を行っていく必要がある。

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

(別紙1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協会の名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業費	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										目標値	実績値	達成率	達成率					
馬路村鳥獣被害対策協議会	馬路村	26	シカ	被害防止 施設	金網柵 H26:1,250m H28:499m	馬路村鳥獣 被害対策協 議会	平成27年3月31日 平成29年3月31日	100%	馬路村馬路地区及び魚菜類 地区において鳥獣被害防止金網 柵の整備をすることにより、地 区内における要作物への被害 軽減がみられた。	10,680千円	12,300千円	15.7%	119.40 ha	138.00 ha	13.6%	26年度実施の金網柵は、 箇所あたりの設置距離が 短かったが、H28年度実 施箇所は、農地をより広く 囲うよう方針変更しており、 効果の向上が期待できる。 くくりわなに関しては、H2 6購入のくくりわなに対する 村内猟師からの意見を参 考に、H28に選定したお り、より捕獲数の増加に繋 がるよう努めた。	金網柵の設置方法につい て、農地を大きく囲う方針は、 以前より農家の間でも意見が 挙がっていたことであったの で、H28の方針転換は良かつ たと思ふ。 一方で、金網設置場所の地 権者や漁や、設置を契機に行 う者の確保などの面で課題が 出てきているため、地区との 協議を密にして、円滑な事業 実施に努めてほしい。(JA馬 路村 農獣被害対策専門員 笹岡陽平)	都道府県の評価
		27								28	26年度実施の金網柵は、 箇所あたりの設置距離が 短かったが、H28年度実 施箇所は、農地をより広く 囲うよう方針変更しており、 効果の向上が期待できる。 くくりわなに関しては、H2 6購入のくくりわなに対する 村内猟師からの意見を参 考に、H28に選定したお り、より捕獲数の増加に繋 がるよう努めた。							

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

(別紙1)
4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	費用 開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額	達成率	目標値	実績値			
本山市 (本山市有 鳥獣被害 対策協議 会)	本 山 町	26 27 28	ニホンジカ サル イノシシ カラス類 アオサキ カワウ	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26~28:各1回	本山市有 鳥獣被害 対策協議 会	-	-	被害の状況及び被害防止 における課題、事業実施計画 の検討等を行うことができた。	被害金額	124.6%	達成率	124.6%	本山市町の間の被害では、25 年度よりの侵入防止柵の設置に よりイノシシ、シカによる稲、野菜 等への被害が軽減されている。か し、侵入防止柵等の被害対策を 行った効果が出ている。捕獲・カメラ についても機能を実践している。 地域集落(主に北部を中心に農作物損 害)は出ているが、それらの被害での対策 運動を行うことが必要と思われる。ま た、鳥獣の減少を防ぐためにも、 町の方から被害者減少の推進等の対 策を考えている。	【取組実績】 捕獲量の増加や防犯柵の 設置等に取組んだ。 【自費】 被害金額、面積ともに自費 達成に上っている。 【今後の対策】 サルの被害の増加傾向を 踏まえ、地域ぐるみの対策 を行うほか、被害の大きい 地域の対策に取り組みが必要 がある。	
				個体数調 査	捕獲量 H27:9隻				100%	捕獲量を導入し、効率良く 捕獲活動ができるようになった。	被害金額	77.97%	実績値			77.97%
				被害防止 施設	WM柵 H26:3.81m				100%	本山市種代地区に侵入防 止柵を設置したこと、地区 内における農作物被害の軽 減に繋がった。	被害金額	87.20%	目標値			87.20%
				(H27) 緊急捕獲活動 支援事業	ニホンジカ65頭 イノシシ35頭			捕獲頭数が増加し、個体数 の減少と被害軽減の効果が 出始めている。	被害金額				【取組実績】 ニホンジカ及びイノシシの捕獲 数については、基金事業を含め、 H26:183頭(シカ:154頭、イノシ シ:39頭)、H27:179頭(シカ:130 頭、イノシシ:49頭)、H28:20頭 (シカ155、イノシシ:46頭)で推移 している。 【自費】 被害金額、面積ともに自費達成 に上っている。対策の効果が 出ている。 【今後の対策】 ニホンジカ、イノシシの被害は 減少しているが、サルの被害が 多く出ている。地域ぐるみの 対策や個々の被害者の技術の向 上などにより捕獲量を高め、行く 必要がある。			
				(H27補正) 緊急捕獲活動 支援事業	ニホンジカ261頭 イノシシ11頭				被害金額							
				(H28) 緊急捕獲活動 支援事業	ニホンジカ158頭 イノシシ46頭					被害金額						

注1:被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止計画を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

(別紙1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協賛名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	利用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額		被害面積				
										目標値	実績値	目標値	実績値			
大豊町 (大豊町鳥獣 被害防止対 策協議会)	大豊 町	26	ニホンジカ イノシシ サル タヌキ ノウサギ ハト類 カラス類 カワウ アオサギ	(H27) 緊急補償活 動支援事業	ニホンジカ723頭 イノシシ71頭	大豊町 (大豊町鳥獣 被害防止対 策協議会)			捕獲頭数が増加 し、個体数の減少 と被害軽減の効 果が開始してい る。	24,870千円	16,810千円	144.8%	38.60 ha	38.59 ha	147.2%	【補償実績】 ニホンジカ及びイノシシの捕獲数につ いては、基金事業を含め、H26:1302頭 (シカ:1130頭、イノシシ:172頭)、H27: 1435頭(シカ:1243頭、イノシシ:192 頭)、H28:1635頭(シカ1413頭、イノシ シ:222頭)と変動している。 【目標】 被害金額、面積ともに目標達成に 至っており、対策の効果が現れている。 【今後の対策】 防護網の効果を維持できるよう目回り 点検の実施や個々の狩猟者の技術の 向上などによる捕獲圧を高めて行く必 要がある。
		27		(H27補正) 緊急補償活 動支援事業	ニホンジカ520頭 イノシシ121頭											
		28		(H28) 緊急補償活 動支援事業	ニホンジカ1413頭 イノシシ222頭											

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
 注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止計画の実績を記載した場合、その事業内容等も記載すること。

(別紙1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象 地区	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	利用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										被害金額 目標値	実績値	達成率	被害面積 目標値				実績値	達成率
大川村有 害鳥獣被害 対策協議 会	大川 村	26 27 28	サル イノシシ ニホンジカ	(1427) 緊急補獲活 動支援事業	ニホンジカ120頭 イノシシ7頭	大川村 (大川村有害 鳥獣被害対 策協議会)			緊急補獲活動 や防護柵等の設 置により被害が 軽減されている。	99千円	692千円	-499.0%	0.10 ha	0.69 ha	-248.5%	緊急補獲活動、補獲技 術講習会、被害対策研 修会、狩猟免許取得補 助金、被害対策資材設 置補助金などの実 施により防 除に努めており、補 獲頭 数も増加し、防護柵の設 置件数も増加している。 しかし、大きな被害が 出 ていないことや、イノ シシによる大きな田んぼ被 害があったため、達成率 が低調となっている。	大川村は福北地域の中で も特に鳥獣被害対策への補 助事業等に力を入れてお り、その結果としてシカ、イ ノシシ対策ではある一定の成 果が出ている。 しかし、被害の大きいサル 対策では効果的な対策が取 られておらず、今後、サル対 策への取り組みが大川村の 被害軽減に重要なことと思 われる。(JA土佐れいほく鳥 獣被害対策専門員 和田 康司)	【補獲実績】 ニホンジカ及びイノシシの捕獲数に ついては、基金事業を含め、H26:45頭 (シカ:41頭、イノシシ:4頭)、H27:40 頭(シカ:31頭、イノシシ:9頭)、H28: 46頭(シカ39、イノシシ:7頭)と推移し ている。 イノシシとサルの被害が大幅に増加 し、被害金額、被害面積ともに目標を 達成できなかった。 【今後の対策】 イノシシ及びサルに対する被害軽減 に向け、地域ぐるみでの対策を進める 必要がある。
				(1428) 緊急補獲活 動支援事業	ニホンジカ11頭 イノシシ2頭													
				(1429) 緊急補獲活 動支援事業	ニホンジカ9頭 イノシシ7頭													

注1:被害金額及び被害面積の目標額については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせた他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

(別紙1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地区	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	補遺結果の評価
										目標値	実績値	達成率	達成率			
仁淀川町 (仁淀川町 鳥獣被害防止 対策協議会)	仁淀川町	26	イノシシ	推進体制の整備	協議会総会の開催 H26.27.各1回	仁淀川町鳥 獣被害防止対 策協議会	—	—	被害状況及び被害防止における課題、事業実施計画の検討等を行うことができた。	2,000千円	2,298千円	90.3%	74.1%	防護柵及びびくくり屋を設けた地域については、イノシシによる被害が軽減されたが、その地域の近隣地域へ個体が移動し被害物の被害が増加している。	【取組実績】 鳥獣被害対策実施隊による被害の巡回くくり屋、侵入防止柵の設置等に取組んだ。 二ホンシカ及びイノシシの捕獲数については、基金募集を含め、H26:95頭(シカ:0頭、イノシシ:95頭)、H27:42頭(シカ:0頭、イノシシ:42頭)、H28:88頭(シカ:3頭、イノシシ:85頭)と変動している。	補遺結果は、被害防止柵の設置、巡回の強化、技術講習会の開催など、効果良く捕獲や個々の狩猟者の技術の向上などにより捕獲率を高めて行く必要がある。
		27	サル	個体数調整	くくり屋 H26:30基 H27:80基	仁淀川町鳥 獣被害防止対 策協議会	平成26年12月24日 平成27年11月7日	100%	地区に配布することにより、効率よく捕獲活動ができるようになった。	2,000千円	17,000千円	80.3%	74.1%	新たな被害を未然に防ぐために、駆除に合わせた防止柵の設置、関係者への捕獲依頼、周辺環境整備が必要になる。		
仁淀川町 (仁淀川町 鳥獣被害防止 対策協議会)	仁淀川町	28	イノシシ、カラス類、ハト類、カワウ、クビシシ、タヌキ、アナグマ、キツネ、シカ	被害防止	鳥獣被害対策実施隊による巡回 H28~H29:8ヶ月×10日間×5地区	仁淀川町鳥 獣被害防止対 策協議会	—	100%	美郷町の鳥獣対策(防止柵、捕獲体制、シヒエ料理)の研修を行うことにより、地区への防止柵の設置指導や捕獲活動の効率化を図ることができた。	2,000千円	17,000千円	90.3%	74.1%	町全体の高齢化、過疎化により人員不足の状況ではあるが、さらなる新規狩猟者の確保や設置した防止柵の定期的な点検、維持管理が必要と考える。		
		28	イノシシ	被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 H27:2,897m H28:1,000m	仁淀川町鳥 獣被害防止対 策協議会	平成28年1月31日 平成29年2月19日	100%	センサーカメラを導入し、効率良く捕獲活動ができるようになった。	2,000千円	17,000千円	90.3%	74.1%	捕獲頭数の増加や地域における被害の軽減に繋げることができた。今後も引き続き被害軽減に向けた対策を行っていく必要がある。	事業実施地区はイノシシによる被害軽減の効果が期待されているため、引き続き捕獲対策を行ったいく必要がある。また、狩猟者を対象とした技術講習会等を行い捕獲効果の向上に努めてください。 (JAコスモス 鳥獣被害対策専門員 真辺 忠志)	
				(H27) 緊急捕獲活動支援事業	イノシシ42頭				捕獲頭数が増加し、個体数の減少と被害軽減の効果が始まっている。							
				(H28) 緊急捕獲活動支援事業	二ホンシカ3頭 イノシシ85頭											

注1:被害金額及び被害面積の目標値を記し、これに合わせた他の欄も記載すること。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地区	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				第三者の意見	都道府県の評価		
										被害金額	被害面積	達成率	達成率				
										目標値	実績値	達成率	達成率				
中土佐町 (中土佐町 有害鳥獣被害 対策協議 会)	中土佐町	26 27 28	イノシシ サル ニホンジカ ハクビシン	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26～27:各1回 H28:2回	中土佐町 有害鳥獣 被害対策 協議会	—	—	被害の状況及び被害防止 における課題を協議し、事業 実施計画を作成する事がで きた。	被害金額 2,221千円	被害面積 2,18 ha	125%	0.0%	捕獲頭数にとられず、加害 個体を除去できたかどうかを把握 することが必要である。とくに サルについては加害者を除去し 捕獲数については、基金等 をふまえて、H26:462頭(シカ: 60頭、イノシシ:402頭)、 H27:527頭(シカ:42頭、イノ シシ:485頭)、H28:274頭(シ カ:48、イノシシ:226頭)と変動 している。 【目標】 被害面積については、ハク ビシンの被害が大幅に増加 し目標を達成できなかったが、 被害金額については、目標 額を達成している。 【今後の対策】 シカやイノシシの分布の広 域化やサルの被害の増加傾向 を踏まえ、地域ぐるみの対 策を行うほか、現実的な目 標を設定する必要がある。 捕獲活動については、サ ル、ハクビシンの被害が多く なっており、地域ぐるみの技 術対策や個々の狩猟者の技術 の向上などにより捕獲圧を 高めて行く必要がある。	捕獲頭数にとられず、加害 個体を除去できたかどうかを把握 することが必要である。とくに サルについては加害者を除去し 捕獲数については、基金等 をふまえて、H26:462頭(シカ: 60頭、イノシシ:402頭)、 H27:527頭(シカ:42頭、イノ シシ:485頭)、H28:274頭(シ カ:48、イノシシ:226頭)と変動 している。 【目標】 被害面積については、ハク ビシンの被害が大幅に増加 し目標を達成できなかったが、 被害金額については、目標 額を達成している。 【今後の対策】 シカやイノシシの分布の広 域化やサルの被害の増加傾向 を踏まえ、地域ぐるみの対 策を行うほか、現実的な目 標を設定する必要がある。 捕獲活動については、サ ル、ハクビシンの被害が多く なっており、地域ぐるみの技 術対策や個々の狩猟者の技術 の向上などにより捕獲圧を 高めて行く必要がある。		
				個体数調 査	捕獲量 H26:80基 H27:10基 H28:4基	中土佐町 有害鳥獣 被害対策 協議会	100%	捕獲量を新たに導入し捕獲 活動がより効果的に行えるよ うになった。	被害金額 1,980千円	被害面積 3.20 ha	—	—	—	—	—	被害金額は必ずしも金 額に現れるものではない。新作 業の取組など、そもそも生産 量が減少している可能性もあ る。 そこで、金額だけで被害状況 を判断するのではなく、農家や 小規模農場を管理している町民 等へのアンケート調査を実施 し、被害の増減や意識を把握す る必要がある。 (NPO法人四国自然史科学研究 センター 重田恵美子)	被害金額は必ずしも金 額に現れるものではない。新作 業の取組など、そもそも生産 量が減少している可能性もあ る。 そこで、金額だけで被害状況 を判断するのではなく、農家や 小規模農場を管理している町民 等へのアンケート調査を実施 し、被害の増減や意識を把握す る必要がある。 (NPO法人四国自然史科学研究 センター 重田恵美子)
				被害防止	生鳥状況調査 H26:1回	中土佐町 有害鳥獣 被害対策 協議会	—	—	被害金額 2,221千円	被害面積 2,18 ha	125%	0.0%	緊急捕獲活動による捕獲頭数 の増加と防護柵等の設置による 防除により被害総額に効果が出 ている。 今後も継続的に被害総額に向 けた支援を行っていく必要がある。	緊急捕獲活動による捕獲頭数 の増加と防護柵等の設置による 防除により被害総額に効果が出 ている。 今後も継続的に被害総額に向 けた支援を行っていく必要がある。			

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (組織名)	対象地区	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業費	管理主体	利用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										予算額	実績値	達成率	実績値					
精原町 (精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会)	精原 町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシ アライシ カラス トビ サギ類 キツネ	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26~28:各1回	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	—	—	被害の状況及び被害防止に おける課題、事業実施計画の 検討等を行うことができた。	1,200千円	596千円	262.1%	5.51ha	26.00ha	0.0%	防護網や補遺檻 を設置した地域に ついては、イノシ シ、サルによる被害 が軽減されている。 また、狩猟による 捕獲の増加や、地 域ぐるみでの被害予 防活動など、地域住 民の意識の向上に よる被害の減少も 考えられる。 今後も、さらなる 狩猟者達への推進 や、防護網、補遺檻 の定期的な点検、 維持管理が必要と 考える。	防護網や補遺檻の設置及び 先遣地を視察するなど、 攻めの対策を行うことにより 一定の効果が出ている。 一方小型獣の被害が自 立が必要とされており、被害 対策を呼び寄せる原因を 人間が作っている場合もあ るので、今後の対策が必要と考 える。 【今後の対策】 被害面額については、シカ の被害が大幅に増加し、被害 金額については、目録達成 に至っており、対策の効果 が大きい。 先遣地の視察、侵入防止 網の設置、技術講習会の開 催など、地域ぐるみの体制 づくりや個々の狩猟者の技 術の向上などにより捕獲率 を高めて行く必要がある。	【取組実績】 研修会の開催や侵入防止 網の設置等に努められた。 二ホンジカ及びイノシシの 捕獲額については、被害率 を含め、H26(814頭)、イ ノシシ、H27(108頭)、イ ノシシ、H28(997頭) (シカ)409頭、イノシシ、403頭 (シカ)594、イノシシ、403頭 と変動している。
				個体教訓 整	補遺檻 H26:8基 H27:3基	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	100%	補遺檻及びセンサーカメラを 設置し、被害状況の把握や物 産の良好な捕獲活動ができるよう になった。										
				被害防止 施設	補遺技術研修会 H26:27:各3回 H28:2回	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	—	—	近畿中国四国農業研修セン ターより講師を招き、地域住民 を対象に研修を開催し、正確な 被害状況の把握及び効果的な 対策について学ぶことができ た。									
精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	精原 町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシ アライシ カラス トビ サギ類 キツネ	被害防止 施設	WAM網 H26:8,880m H27:1,870m	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	平成28年1月30日 平成28年1月20日	100%	精原町野田地区及び山の 山地区においてイノシシ用侵入 防止網の整備をすすめること により、地区内における農作物へ の被害軽減がみられた。	1,200千円	596千円	262.1%	5.51ha	26.00ha	0.0%	捕獲頭数が増加 したほか、協議会が 実施する講習会等 の取り組みにより、被害の 軽減につなが ることができた。 今後も野田地区等 各団体と連携しつ つ、被害減少に向け た取り組みを行っ ていく必要がある。	緊急補遺活動を行った地 域については、シカ、イノシ シによる被害軽減の効果が でているため、引き続き捕獲 対策を行っていく必要がある。 また、併せて、補遺技術講 習会を行い捕獲効果の向上 に努めてください。 (JA連野山 鳥獣被害対策 専門員 上岡武士)	防護網や補遺檻 を設置した地域に ついては、イノシ シ、サルによる被害 が軽減されている。 また、狩猟による 捕獲の増加や、地 域ぐるみでの被害予 防活動など、地域住 民の意識の向上に よる被害の減少も 考えられる。 今後も、さらなる 狩猟者達への推進 や、防護網、補遺檻 の定期的な点検、 維持管理が必要と 考える。
				(H27) 緊急補遺活動 支援事業	二ホンジカ268頭 イノシシ112頭	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が目 立っている。									
				(H27補正) 緊急補遺活動 支援事業	二ホンジカ241頭 イノシシ297頭	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が目 立っている。									
精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	精原 町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシ アライシ カラス トビ サギ類 キツネ	緊急補遺活動 支援事業	二ホンジカ584頭 イノシシ403頭	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が目 立っている。	1,200千円	596千円	262.1%	5.51ha	26.00ha	0.0%	捕獲頭数が増加 したほか、協議会が 実施する講習会等 の取り組みにより、被害の 軽減につなが ることができた。 今後も野田地区等 各団体と連携しつ つ、被害減少に向け た取り組みを行っ ていく必要がある。	緊急補遺活動を行った地 域については、シカ、イノシ シによる被害軽減の効果が でているため、引き続き捕獲 対策を行っていく必要がある。 また、併せて、補遺技術講 習会を行い捕獲効果の向上 に努めてください。 (JA連野山 鳥獣被害対策 専門員 上岡武士)	防護網や補遺檻 を設置した地域に ついては、イノシ シ、サルによる被害 が軽減されている。 また、狩猟による 捕獲の増加や、地 域ぐるみでの被害予 防活動など、地域住 民の意識の向上に よる被害の減少も 考えられる。 今後も、さらなる 狩猟者達への推進 や、防護網、補遺檻 の定期的な点検、 維持管理が必要と 考える。
				緊急補遺活動 支援事業	二ホンジカ584頭 イノシシ403頭	精原町有畜 鳥獣被害対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が目 立っている。									

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止推進府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協賛会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績			事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										目標値	実績値	達成率				
日高村 (日高村有畜 害鳥獣被害 防止対策協 議会)	日高 村	26 27 28	イノシシ カラス ササギ ハクビシ	個体数調 査 整備	捕獲器 H28:10基	日高村有畜 害鳥獣被害 防止対策協 議会	平成29年3月22日	100	捕獲器を導入する ことにより、効果良 くかつ安全に捕獲 活動を行うことがで き、利用年毎好評な ことから、被害防止 に役立っている。	目標値	実績値	達成率	防獲網や捕獲器を設 置した地域について は、イノシシによる被害 が軽減されたが、日高 村内での鳥獣(イノシ シ)の個体数の増加に より農作物の被害は 年々増加している。 さらなる狩猟者確保の 推進や、防獲網、捕獲 器の定期的な点検、維 持管理が必要と考え る。	緊急捕獲活動や防獲 網等の自己防衛対策の 実施により捕獲頭数の増 加や地域における被害 の軽減につながること ができた。 今後も引き続き被害 の軽減に向けた対策 を行っていく必要があ る。	防獲網及び捕獲器を設置した地 域については、イノシシによる被害 が増加傾向にあり、防獲していないな らば、被害が拡大する恐れ がある。 新たな鳥獣被害発生を未然に防 ぐために、防獲網の設置研修会を 実施し、防獲網に合わせた防獲網の 設置や周辺環境整備、保守管理、 維持管理が必要になる。	【取組実績】 捕獲器の設置に取り組 んだ イノシシ及びイノシシ の捕獲状況については、基 金事業を含め、H26:165頭 (シカ:2頭、イノシシ:163 頭)、H27:192頭(シカ:0 頭、イノシシ:192頭)、イ ノシシ:184頭(シカ0頭、イ ノシシ:184頭)と同程度で推 移している。 【目標】 被害金額、面積ともに目 録達成に至っており、対策 の効果が現れている。 【今後の対策】 効果的な捕獲器の設置 や技術講習会の開催な ど、体制づくりや面々の狩 猟者の技術の向上などに より捕獲率を高め、行っ ていく必要がある。
										目標値	実績値	達成率				
										312千円	273千円	130.5%				
									目標値	実績値	達成率					
									捕獲頭数が増加 し、個体数の減少と 被害軽減の効果が 出始めている。							
				(H27) 緊急捕獲活動 支援事業	イノシシ109頭											
				(H27)補正 緊急捕獲活動 支援事業	イノシシ83頭											
				(H28) 緊急捕獲活動 支援事業	イノシシ184頭											

注1: 被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標達成率、これに合わせた他の欄も記載する。
注2: 都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止計画の達成状況を記載する場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況
(別紙1)

事業実施主体名 (組織名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業費	管理主体	使用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										目標値	実績値	達成率	達成率					
津野町 (津野町有 害鳥獣被害 防止対策協 議会)	津野 町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシ カラス類 コウライ コイサギ	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26～H28、各1回	津野町有害鳥 獣被害防止対 策協議会	—	—	被害の状況及び被害防 止における課題、事業実施 計画の検討等を行うことが できた。	39,070千円	17,128千円	233.3%	18.40 ha	7.20 ha	240.0%	緊急補償を配置した地域に ついては、シカ・イノシシに よる被害の軽減効果が出 ているが、サルや小型獣 (タヌキ、アナグマ、ハクビ シ)については駆除・捕 獲が困難なため、被害が 拡大する恐れがある。今 後、イノシシでの鳥獣対策 に対する意識づけをして いく必要がある。	【取組実績】 補償設置及び侵入防止 柵の設置等に取り組み た。 ニホンジカ及びイノシ シの補償額について は、基金事業(シカ:241 頭、イノシシ:222頭)、 H27:611頭(シカ:249 頭、イノシシ:362頭)、 H28:455頭(シカ:204 頭、イノシシ:251頭)と 推移している。 【目標】 被害金額、面積ともに 自衛達成に至っており、 対策の効果が出ている。 【今後の対策】 シカやイノシシの対策 は進んでいるため、今 後は他の鳥獣対策も地 域を挙げて進める必要 がある。	
				個体数調 整	補償額 H26:5基 H28:1基	津野町有害鳥 獣被害防止対 策協議会	100%	捕獲器を導入し、効果良 く捕獲活動ができるよう になった。										
				被害防止 施設	金網柵 H26:1,936m H28:600m	津野町有害鳥 獣被害防止対 策協議会	100%	津野町各地区において鳥 獣被害防止金網柵の整備を することにより、地区内に おける農作物への被害軽 減がみられた。										
				(H27) 緊急補償活動 支援事業	ニホンジカ143頭 イノシシ121頭				緊急補償活動及び 防護柵の設置によ り、被害が軽減され ており、効果がでて いる。									
				(H27補正) 緊急補償活動 支援事業	ニホンジカ101頭 イノシシ241頭													
				(H28) 緊急補償活動 支援事業	ニホンジカ204頭 イノシシ251頭													

注1:被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせ他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況
(資料1)

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業費	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額	実績値	達成率	達成率		
四万十町 鳥獣害防止 対策協議 会	四万 十町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26、28、各1回	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	—	—	被害の状況及び被害防止に おける課題、事業実施計画の 検討等を行ったことができた。	被害金額	実績値	達成率	達成率	防備を敷置した地域に ついては、イノシシ、シカな どの大型獣による被害の発 生効果が大きく出ているが、 ハクビシンやアナフラマ、タヌ キ、ウサギなどの小型獣対 策が地域により、未対策の 地区もあり、これらの防除 対策も重要となっている。大 至急の被害防止が自立的に 行えることから、農家の意識改 革が必要。 また、年中ウリ坊を置くこ とが多くあっており、防備備 等の設置や維持管理の研 究が必要となる。	【取組実績】 研修金の開催や侵入防 止柵の設置等に取り組ん だ。 ニホンジカ及びイノシシ の捕獲数については、基 金事業を含め、H26:1605 頭(シカ:953頭、イノシシ: 652頭)、H27:2477頭(シ カ:1237頭、イノシシ:1240 頭)、H28:1705頭(シカ985 頭、イノシシ:850頭)と変 動している。 【目標】 被害金額、面積ともに目 標達成に達している。 【今後の対策】 【急入防止柵の設置、技 術講習会の開催など、効 率良く捕獲できるための体 制づくりや個々の狩猟者 の技術の向上などにより 捕獲数を高めていく必要 がある。
				個体数調 査	くじ屋 H26:1基	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	100%	平成27年3月11日	研修会等で狩猟者に関する ノウハウを紹介することで、自分 に合った方法が見つけやす くなった。	被害金額	実績値	達成率	達成率		
				被害防除	補修技術研修会 H26~28:各1回	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	—	—	研修を実施することで鳥獣捕 獲に関する知識並びに技術の 向上が図れた。	被害金額	実績値	達成率	達成率		
四万十町 鳥獣害防止 対策協議 会	四万 十町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル	被害防止 施設	金網柵 H26:9768m	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	平成27年3月29日	100%	町内13地区において鳥獣害 防止施設の整備をすることによ り、地区内における農作物への 被害軽減がみられた。	被害金額	実績値	達成率	達成率	緊急捕獲活動及び侵入防 止柵の設置により、被害が 軽減している地域が多くなっ ており、事業の効果が高まっ てきている。引き続き捕獲対 策を行うていく必要がある。 また、捕獲技術向上のため に今まで同様に捕獲技術 講習会を行い、効果的な捕 獲の向上に努めて下さい。 (JA四万十 鳥獣被害対策 専門員 武市達夫)	
				(H27) 緊急捕獲活動 支援事業	ニホンジカ697頭 イノシシ345頭	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が出 始めている。	被害金額	実績値	達成率	達成率		
				(H27補正) 緊急捕獲活動 支援事業	ニホンジカ850頭 イノシシ495頭	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が出 始めている。	被害金額	実績値	達成率	達成率		
四万十町 鳥獣害防止 対策協議 会	四万 十町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル	(H28) 緊急捕獲活動 支援事業	ニホンジカ850頭 イノシシ850頭	四万十町鳥 獣害防止対 策協議会	—	—	捕獲頭数が増加し、個体数の 減少と被害軽減の効果が出 始めている。	被害金額	実績値	達成率	達成率	緊急捕獲活動及び侵入防 止柵の設置により、被害が 軽減している地域が多くなっ ており、事業の効果が高まっ てきている。引き続き捕獲対 策を行うていく必要がある。 また、捕獲技術向上のため に今まで同様に捕獲技術 講習会を行い、効果的な捕 獲の向上に努めて下さい。 (JA四万十 鳥獣被害対策 専門員 武市達夫)	
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止部道同県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

(別添1)

事業実施主体名 (協賛名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業地	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	被害防止計画の評価		
										目標値	実績値	達成率	達成率					
黒潮町 (黒潮町有 害鳥獣被害 防止対策協 賛会)	黒潮 町	26 27 28	イノシシ ニホンジカ サル	推進体制 の整備	協議会総会の開催 H26:2回 H27、H28:各1回	黒潮町有害鳥 獣被害防止対 策協議会	-	-	被害の状況及び被害防 止における課題、事業実施 計画の検討等を行うことが できた。	3,690千円	6,431千円	0.0%	7.01ha	9.04ha	32.3%	<p>【取組実績】 被害防止及び侵入防止柵 の設置等に取組んだ。 ニホンジカ及びイノシシ の捕獲にについては、黒 金事業を含め、H26:57頭 (シカ:41頭、イノシシ:53 頭)、H27:83頭(シカ:52 頭、イノシシ:84頭)、H28: 103頭(シカ97頭、イノシ シ:94頭)と増加している。 【目標】 鳥獣の個体数の増加や、 狩猟者の高齢化・減少によ り、被害金額、面積ともに 目標達成に至っていない。 【今後の対策】 防護柵の設置ができてい ない地域への設置や効果 的な設置に努めるなど、効 率的な捕獲する体制づくり や個々の持病者の技前の 向上などにより捕獲率を高 めて行く必要がある。</p>		
				個体数調 査	捕獲監視 H26:5基 H27:4基 H28:2基	黒潮町有害鳥 獣被害防止対 策協議会	100%	捕獲率を導入手し、効率良 く捕獲活動ができるように なった。			なお新たな鳥獣被害発生を 未然に防ぐために、防護柵の 設置研修会の実施や獣害に 関わった防犯の設置、周辺 環境整備、早守管理、維持管 理が必要になる。							
				被害防止 施設	金網柵 H26:42,008m H27:5,724m WM柵 H28:5,186m	黒潮町有害鳥 獣被害防止対 策協議会	100%	黒潮町内において鳥獣害 防止金網柵の整備をする ことにより、地区内におけ る農作物への被害軽減が みられた。				被害防止に努め ているが、鳥獣の個 体数の増加や、狩 猟者の高齢化、減 少により、被害がな らな。						
(H27) 緊急捕獲活動 支援事業					二ホンジカ 32頭 イノシシ39頭			捕獲頭数が増加し、個体 数の減少と被害軽減の効 果が出始めている。										
(H27補正) 緊急捕獲活動 支援事業					二ホンジカ 20頭 イノシシ502頭													
(H28) 緊急捕獲活動 支援事業					二ホンジカ 97頭 イノシシ941頭													

注1:被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止計画の達成状況を記載する。

(9)様1)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協賛名)	実施地区	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業名	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害回避				被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										目標値	実績値	達成率	達成率	目標値	実績値	達成率	達成率			
高知県	高知県	28		人材育成 定動	鳥獣被害対策に係る現地検討会	高知県	平成28年10月20日～ 21日	—	四国4県の関係者により、事例紹介や愛鳥交換を行うことで、担い手の養成につなげることができた。	—	—	—	—	講習会を5カ所で開催できたことより、くわりのなかけ方や物理的な捕獲方法について初心者に対して技術工場の促すことができた。	講習会の開催は、効果があり熊の初心者にとつて役立つ者である。また、他県の事例を聞き、地元で活かすことができ、今後、同事業の継続を行い、鳥獣被害対策を行って欲しい。	同左				
				人材育成 専業	わな頭補強技術講習会	高知県 監委	平成28年11月13日～ 12月17日	—	わな頭免許者の技術向上を行うことで、捕獲効率の向上につなげることができた。	—	—	—	—	また、他県の専業等(JA津野山鳥獣被害対策専門員 上岡 武士)を学ぶことで県内の専業へ活かすことができた。						

注1: 被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
 注2: 都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

今年度の事業評価対象は室戸市他17市町村であり、室戸市、馬路村、大川村、黒潮町において目標を達成することができなかった。また、昨年度事業評価を行い、目標達成に至らなかった宿毛市は目標年度を1年延長して再評価を行ったが、目標達成には至らず、被害金額及び被害面積ともに前年度実績よりも増加したことから被害の深刻さがうかがえる。目標達成に至らなかった大きな要因は、柵を設置した地域では被害が減少しているもの、柵が設置されていない地域に被害が集中したことや増え続ける野生鳥獣に対して、狩猟者の高齢化による減少もあって、捕獲が追いついていない現状があげられ対策を急いでいる。

柵の設置を進めることで被害減少につながることは明らかであり、鳥獣被害防止総合対策交付金の要件にあてはまらない地域や集落において、県事業や市町村事業を活用した柵の設置を促し、柵設置後の地域ぐるみでの維持管理を行える体制づくりを整えて行く必要がある。

また、捕獲檻の導入や緊急捕獲活動支援事業による捕獲活動経費の上乗せ助成により、ほとんどの市町村の捕獲実績は伸びていることから、今後も継続して事業を活用すること
でこの動きを加速化させると同時に、新規狩猟者確保や個々の狩猟者のスキルアップによって捕獲圧をさらに高める取り組みを行うことで、被害軽減につなげていく必要があると思
われる。県としても今後各市町村に対して実施隊の民間隊員の設置を促し、さらに捕獲圧を高める任組み作りを後押しすることとしたい。